

記録から見た兵庫県の甲虫相*

高橋 寿郎

自分の住んでいる地域にはどのような甲虫類が生息しているのだろうか、それをまとめることは大変なことである。現在、日本の府県のうちでも府県単位の甲虫誌がまとめられているところはある。だがその数はそれほど多くない(平野幸彦氏によれば、現在県単位で甲虫誌がまとまっているのは12県ほどである、1998)。一方では自然破壊は日々行われていて、かつて昆虫類がたくさん見られたところが道路になり、ゴルフ場やレジャー施設になり、住宅地になって虫達の絶滅になっている地域は非常に多い。

われわれが住んでいる地域の甲虫相がわからないまま世が移って行くことは大変淋しいことである。地域の甲虫相をまとめておくことは自然環境の基礎資料にも歴史的資料にもなり、その地域の固有種の発見とか絶滅危惧種の確認にも役立ち、同じ地球上に育った生物の興亡の記録にもなるのではと考えられる。

兵庫県の甲虫相をとりまとめたものは残念ながら今のところ全く無い。また、まとめるのにはまだ充分でない点がある。すなわち、調査地でまだ手がつけられていない所がある、甲虫のうちでもあまり調査されていないグループが結構多くある。まとめるに当たって再同定を必要とすると同時に種名確認のための同定依頼が必要なものも出てくるであろう、それやこれやを考えると簡単にとりまとめは出来ない。

私は60年間兵庫県各地での採集調査をやってきたが、やはり調査地が偏って未調査地が多い。また、採集もあまり不得手なものについては調査、採集が疎かになるにしたがって大変不十分な結果になっている。兵庫県の甲虫に関する文献は1997年末で2,149篇集まっており、それらに記録されているものは種毎に記録を記入している。自分の採集したもののデータもそれに加えて記録している。その数は大変なものである。そこで此処にそれ等を基として兵庫県産の甲虫はどのぐらい記録されているのかをまとめて見た。ただし、この数字は極めて流動的なもので今後の調査によって種の追加もあれば、同定の間違ひも出てくるだろうし、新しく加わってくる

ものも多くあったり、また減少するものもあろうことは当然考えられる。

今まで私がとりまとめた兵庫県の甲虫類は、1998年10月現在で、119科3,311種になった。

この数字は先ほどの平野幸彦氏の論文によると(1988)、神奈川県に次いで2番目に多く産する県ということになるのである。まだ未調査地、未調査種が多いことを考えると、4,000種近く当県には甲虫が分布しているのではないかと考えられる(平野幸彦氏による推定総数の計算によると4,183種になる。解明率は79.1%になる)。

県下を地域別に分けて眺めてみると、次のようになる。

淡路島	71科	653種
摂津地域	94科	1,430種
六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍		
	90科	1,884種
東播磨	79科	1,046種
西播磨	85科	1,481種
音水・赤西溪谷(宍粟郡)	77科	1,085種
丹波地域	79科	1,219種
但馬地域	93科	1,730種

これから眺めてみると六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍地域が一番多くの種が記録されている。これはなんといっても神戸市という都市において自然地が多かったこともあるが、調査する人が多いことと調査回数が非常に多いことが影響していると考えられる。例えば私の家の裏にある鳥原貯水池畔は狭い地域であるが、水道局の用地が多いということで開発が制限されていることと、私などは1936年頃から採集に行き、年によっては1年のうちその大部分半日ぐらひはこの地域に入って採集、調査をしたということをやっている。この都市の中にある僅かの地域で、しかも単独の調査で甲虫類71科895種を記録した(鳥原貯水池自然調査報告書・神戸市土木局公園緑地部・兵庫県環境技術センター発行、1993)。すなわち、調査に時間と回数をかけることがその結果に大きな影響を与えることがわかる(もっとも、この地も公園化したお陰で多くの人が訪れ、昔日の自然の状態が失われつつあることは大変淋し

* 兵庫県甲虫相資料 350

い).

兵庫県下で記録された甲虫 3,311 種のうち、多くの種を産する科ベスト・ファイブは、1.オサムシ科 308 種、2.ハネカクシ科 300 種、3.カミキリムシ科 297 種、4.ハムシ科 296 種、5.ゾウムシ科 270 種である。

おそらく調査が進めば、ハネカクシ科が一番多くの種を産するであろうと考えられる。

以上、兵庫県にどれくらいの甲虫が分布しているのかといったことを現時点で眺めてみたが、まだまだ調査は前途遠遠であり兵庫県甲虫誌のまとめが出来るのは何時のことか大変心許ない次第である。

<参考文献>

- 平野幸彦(1987) 県別の甲虫は何種いるか
月刊むし(201),p.28-31.
平野幸彦(1995) 地域別の甲虫は何種いるか
月刊むし(296),p.23-27.
平野幸彦(1998) 地域甲虫相を調べる
昆虫と自然 33(11),p.17-20.
平野幸彦(1998) 平野幸彦氏虫寿記念号
神奈川虫報特別号 No.2.

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町 1-44)

私の昆虫採集記(1)*

高橋 寿郎

私が昆虫採集を始めたのは昭和 10(1935)年である。考えてみると年数だけではもう 60 年を超えている。その間、学徒出陣で中支戦線に参戦、シベリア抑留のブランク時代、戦後を生きていくための"虫どころではない"といった生活、また会社社会における生活のための戦いと、プロではないので虫取りが十分に出来る生活ではなかった(定年退職後は虫取りは時間的には出来たが、今度は生活のため金銭的に大変苦しかった)。いろいろと制約はあったが最近まで昆虫採集をやった。

そこで、私の昆虫採集の記録のいくつかをここに発表しておきたいと思った。読み物として、また唐人の戯事(ワグト)として読み流していただければ幸いである。

初めに記したように私が昆虫採集を始めたのが昭和 10(1935)年である。その年、私は神戸二中(現兵庫高校)に入学した。当時中学校では夏休みの宿題に昆虫採集は必修科目であった。

裏山へ出掛けては生まれて初めての本格的(?)昆虫採集を始めた(もっとも子供の頃、当時はアオカナブンとかカナブン、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、カブトムシが子供の遊び相手としてわりと身近に簡単に入手出来ていたりして、虫取りの機会

に恵まれていた時代であった)。

標本製作については良く知られている*加藤正世博士(*印故人、以下同じ)著の"趣味の昆虫採集"並びに"昆虫標本整理法"を本屋で立ち読みして承知した(購入するほどの小遣いが無い状態だった)。特に珍しいものはとれていないのであるが、標本箱二箱をこしらえて9月に学校に提出した。あにはからんや先生からはこれは良く出来ている、百貨店の展示会に出品するから虫の名前をキッチリとラベルに書き込んでこいといわれてさあ大変、虫の名前なんか当時正式にはほとんど知らなかったので、仕方なく学友と(彼も展示会出品組だった)大倉山にある神戸市立図書館へ出掛けた。

昆虫図鑑(松村松年博士のものであった)を借り出して、閲覧室で標本と較べて名前のわかるものはラベルに記入して、全部がわかったのではないが程度わかった段階で学校へ再提出した。この調べは丸一日かかった。2人とも飯も食わずに図鑑をくり返して見た。おかげで一日で音を上げてしまった。

当時、9月には神戸市内の中学校の宿題作品を集めて、神戸大丸で作品展をしていた。生まれて初めての採集品を出品して貰って、その上思いもかけず入賞までして、カブトムシの図柄のついた銅メダルを貰って感激した次第である。

その年の秋、湿性肋膜炎になり、翌一年休学し転

* 兵庫県甲虫相資料 357